

case  
11ビケ足場仮設事業  
協同組合

- ◆業種 … 建設業(ビケ足場施工)
- ◆従業員数 … 加盟社数41社、人員3,500名(うち施工スタッフ:約2,300名)(令和6年3月末現在)
- ◆受検者数(累計) … 1級733名、2級3,080名

建設現場における技能の標準化と教育体制の確立により、若手従業員のモチベーション向上に寄与し、顧客や求職者からの評判も向上している。

### (1) 社内検定制度の概要

ビケ足場仮設事業協同組合(以下「ビケ組合」という。)は、「ビケ足場施工士1級、2級」という社内検定を平成20年から試行を開始し、平成23年2月に厚生労働省の認定を受けている。

認定社内検定は、とび職などの国家技能検定では測れない、ビケ足場の組立に関する技能をはじめ、足場の設計や部材積算などの技能まで、現場で求められる職務に関する幅広い技能を測るものである。なお、『ビケ足場』とは、主に低層住宅建設現場で使用される足場の一種であり、安全対策と施工効率向上の両立を目的として、足場の緊結部分にくさび方式を採用した足場を示すものである。

### (2) 背景・目的

建築業界では古くから、「親方の背中を見て仕事を覚える」といった考え方があり、教育といった観点が欠けていた。

また、親方によって、良い・悪いの評価が異なるなど、なにが正しいのか、明確な基準や判断がなく、自己流で作業が行われてきた。

この昔ながらの作業や育成手法を改め、正しい基準を明確にし、作業や状態の良し悪しの判断が出来るように文書化し、育成するための制度構築が必要と考えた。



### (3) 構築前後の取組

#### ① 認定前

社内検定を取得することでどのようなメリットがあるのか、経営者だけでなく、受検者自身に理解してもらい浸透させることに苦勞した。特にベテランの従業員になるほど、「技能は現場で覚えるもの」「自分の技能を測ることなどできない」として、検定制度自体への忌避感があった。

受検者には「何十年培ってきた高度な技能・キャリアの軌跡を証明するもの、示せるものが何もないのはもったいない」ということを伝え、社内検定取得の意義の理解に努めた。

顧客であるハウスメーカーが認定社内検定を構築・活用していたこともあり、足場業界として、認定社内検定を構築すれば、顧客の信頼も獲得できるのではないかと業界共通の考えや雰囲気も後押しとなった。認定社内検定構築の目的を組合内で明確にし、共通認識を作り上げられることがポイント

## (5) 構築の効果・メリット

である。

なお、社内検定の立ち上げに際しては、組合内に「社内検定運営委員会」を設置した。

### ② 認定後

原則として、この社内検定に合格した者を現場を指揮する職長として認めるようにした。

これまで正しい作業手順などが明確になっていなかっただけでなく、ビケ足場を施工する職長としての要件も明確に出来ていなかった。

職長を目指す若手の施工スタッフは修得すべきことが明確になったことで、モチベーションアップに繋がり、第151回(令和6年3月末)の終了時点で受験者数は1級733人、2級3,080人となり、合格者は1級193人(合格率26.3%)、2級1,352人(合格率43.9%)となった。多数の施工スタッフが正しい「知識」「技能」「考え方」を習得するために資格取得にチャレンジしている。

## (4) 人事制度・待遇面との連携



企業ごとに支払(給与)制度・体系は異なるが、基本的に職長と職長以外で収入が異なっている。社内検定認定制度を導入することで職長=収入増加に繋がる要件を明確にすることが出来た。

また、合格証や有資格カードの発行、ビケ会ニュース(広報誌)への合格者の掲載などにより受検に対するモチベーションを高めている。

施工スタッフにとっては、社内検定を通じて目指すべき方向性や将来イメージを持つことができるため、モチベーションの向上の一助にもなっており、ひいては定着率向上にもつながっている。業界の主な採用対象は高校生であり、業界として認定社内検定という人材育成システムを有していることが、教師や保護者の信頼感を高めている。

最近では、2級は高卒3年目での受験者が増え、1つの目標となっている。一方で、1級のストレート合格は難しく諦める者も多かったが、地道に学習と訓練を継続することで合格する者も増えてきている。このような1級合格者は、後輩の指導に熱心である。

また、正しい知識を得ることで事故の発生も減少するとともに、お客様満足の上にも繋がっている。



case  
11

ビケ足場仮設事業協同組合

### 一級ビケ足場施工士合格者のご紹介



鋼管ビル株式会社  
東海営業所  
八木 達也 様

この度、ビケ足場施工士検定一級に無事合格する事が出来ました。実は、一級試験は数年前にも一度受けた事があり、その後続けて3回、計4回目にしてやっと合格する事が出来ました。合格を知った時は、嬉しい気持ちとともに、正直とてもホッとした事を覚えています。仕事は日々とても忙しく、合間を縫いながら試験に向けて、地道に勉強をして参りました。今後は、一級合格者としてつけた知識、技術を活かし、現場を牽引して行ける様、日々邁進していく所存です。



株式会社ダイサン  
埼玉サービスセンター  
高木 直樹 様

今回、4度目の受験で合格することが出来ました。一級の仲間入りが出来てとても嬉しく思います。練習に立ち会って頂いた、安西さん、冨永さん本当にありがとうございました。練習では出来ていたことが、本番になると検定会場の雰囲気にもまれミスをしてしまい3度も不合格を味わいました。一つ一つの動作の前に落ち着くことが大事だということを改めて感じる事が出来ました。これからは赤ヘルの一員として他の見本になれる様に責任を持って行動していこうと思います。